

安倍内閣総理大臣及び加藤国務大臣の靖国神社への真榊奉納に強く抗議します。

報道によれば、2017年度の靖国神社秋季例大祭に当たり、安倍内閣総理大臣及び加藤国務大臣は真榊を奉納したとのこと。

わたしたちはこれまで、靖国神社の侵略戦争に対して評価をするあり方を指摘し、公人として、参拝あるいは玉串料の奉納等の行為をしないように、数次にわたり要請をしてきたところ。靖国神社が近代日本の戦争において果たした役割、いまなお持ち続けている侵略戦争を正当化しようとする特異な歴史認識などを考えるならば、首相や閣僚らが靖国神社に供物を奉納する事或いは参拝することに対して容認することができないと思う人がたくさんいるはず。政府はこのような国民の声を聞くべきです。また、日本国憲法の求めている平和主義を守るべきです。

日本国憲法は「国及びその機関は、…いかなる宗教的活動もしてはならない」と定めているのですから、靖国神社への供物奉納や参拝をくりかえすことは許されない行為です。

以上の理由により、わたしたちは安倍首相等の標記の行為について、強く抗議します。

2017年10月19日

靖国神社国営化阻止キリスト者グループ委員長 浦瀬 佑司